

只見人の夢

ただみじんのゆめ

Vol.01

「只見を明るく元気に」そんな思いが伝わるホットな活動を、積極的に展開されている町民の方をピックアップし紹介します。

今回は、舘ノ川にお住まいの「目黒道人さん」にインタビューをお願いしました。只見に住み、只見を思い、只見を熱くする。そんな「只見人」の心に描かれていることとは…。

皆さん、目黒さんプロデュースのイベントに参加して、只見を盛り上げませんか。

ピックアップ・インタビュー

Pickup・Interview



目黒道人さん (36)

舘ノ川

只見に帰ろうと思われたのは？

東京で10年勤めた会社を辞めた時期と、父が体を壊して入院した時期が重なったため、六本木ヒルズのIT企業への転職を蹴って只見へ帰ってまいりました。(※おおむね事実です)

只見の魅力はどこにありますか？

誤解を恐れず、あえて言うならば…。

幸か不幸か人口が減り続け、価値ある豊かな自然だけが残ったところが他の自治体にはちよつと真似のできない贅沢な

魅力になっているんじゃないでしょうか。

また観光地化されていないところも、無作為とはいえないとキーな魅力です。

地域振興の専門家やアドバイザーにとっては「ひと言物申さずにはおれない」魅力があるように、様々なアドバイスを仰いできた歴史があります。

「今も昔も変わらぬ景色と人」これが只見の魅力ではないでしょうか。

現在、活動されている内容を教えてください。

先日開催しました「100万

人のキャンドルナイト in 只見」というイベントを制作していました。

冬には「喫茶・キャンドル」というイベントも開催する予定です。

HIV/AIDSの予防啓発イベント「只見ロックフェスティバル」も11月に開催予定です。これらの企画・演出・プロデュースが主な役割です。

「味付マトンケバブ」というご当地バーガーを開発し、イベントなどで販売しています。現在は商工会青年部で常設店展開を進めており、倉田屋さんと山木亭さんで提供していただいております。今後、ご理解ある

PROFILE

目黒 道人 (めぐろ・みちと) Meguro Michito
昭和48年生まれ (36)

セイワ電子 代表取締役 / 只見町商工会青年部部长

▶平成18年にUターン。100万人のキャンドルナイト in 只見などの各種イベントを手掛けるほか、ご当地フード・マトンケバブを商品化。また、只見町のCMを制作されるなど、町の振興に精力的に取り組む。



▲100万人のキャンドルナイトin只見(只見川公園)

◀喫茶・キャンドル(只見スキー場)

マトンケバブ 誕生秘話



イベントの制作費を稼ぐため、雪まつりに出店するべくメニューを考案しました。

東京の相棒と屋台で売っているドネルケバブを食べながら「俺ならマトンでやるな」と洒落で言ったのがきっかけでした。

モデルがあったため、すぐ形にはできたものの、出店で販売可能な商品にするためには保健所へ何度も足を運び、アドバイスを受けながら様々な条件をクリアする必要がありました。

マトンは冷めてしまうと脂が固まっておいしくなくなるデメリットもあり、提供方法などは未だ試行錯誤の途上です。

対話のコミュニケーションから新たなアイデアや出来事が生まれます。それらが豊かに成熟したとき、芸術や文化が生まれコミュニティの活力となるのではないのでしょうか。

この機会を得るために、未来ある若者が毎晩お酒を呑み歩ける状況がまずは必要だと感じています。

特に若い女性ほど機会に恵まれない傾向があるので、二次交通の充実も欠かせません。「若者は酒を呑んで仕事に精を出せ」と水戸黄門で言っていました。

町が元気になるために一番必要なことはなんですか？

飲食店にご協力いただきながら、観光で訪れたお客様などに提供していただける機会を増やしていきたいと思っています。

そもそも経済活動を伴わない活性化はありえない、とあえて言っちゃいます。

家で晩酌よりも外へ出て、気の置けない仲間と対話をし、酒を酌み交わす機会が増えればいろんな問題が解決すると思います。

今後はどんな活動をお考えですか？

9月19日に南会津町で開催される「大宴会in南会津」という音楽イベントを制作中です。キャンプ場で開催する野外コンサートで、キャンプしながら音楽を聴こう！というイベントです。

周辺町村でも人口減少、若者減少の課題は同じであるため、

過疎で高齢化の町にあって、将来に希望を持つことは大変難しいのですが、過密でストレスに溢れ、環境の悪い都会に住んでいる人にとって憧れの場所と望まれる只見であって欲しいと思いますし、そうなるための対話や試行錯誤をこれからも楽しんでいきたいと思っています。

都会と田舎のコミュニケーションがもっと活発になって、互いに有るものと無いものを共有できる世の中に生きてみたいと思います。

最後に、今抱かれています「夢」を教えてください。

広域的に志しある者が連携して楽しめる機会を増やしていきたいです。

数々のイベントの企画、制作そして実行と、そのバイタリティーには心を揺さぶられました。

只見の魅力を巧みにアピール、発信される活動をこれからも期待いたします。

目黒さんには、お忙しい中ご協力いただき、本当にありがとうございました。